

## <全校授業研究会> 高等部保健体育科

### 「特別支援学校総合体育大会に向けて～ネオホッケー～」9/13

#### 【導入】めあての確認

セットプレイで状況を判断して動こう



#### 【展開】セットプレイの練習



#### 【まとめ】成果・課題を実感



#### 協議題

「体を動かすことが楽しいと思える授業づくりや学びのつながり  
～運動習慣につながる指導内容や手立ての工夫について～」



#### 全校授業研究会 グループ協議より(抜粋)

##### ①運動の習慣化が運動の苦手な生徒たちの成長へ、いつでもどこでも楽しく運動

- ・運動の楽しさを実感する
- ・個人の成果を全体へ共有する
- ・勝つ楽しさを味わう
- ・コミュニケーションを通じたスポーツの楽しさを感じる
- ・チームプレイによる声の掛け合い

##### ②様々なスポーツの経験、地域のスポーツ団体とのつながり、卒業後の余暇活動

- ・選択体育を用意する
- ・地域の方に教えてもらう機会を設定する
- ・運動習慣のきっかけづくり

##### ③生徒が自発的に動けるように、役割と責任、意欲の向上、自分の気付き

- ・めあてを伝えるタイミング
- ・TTで連携する
- ・即時評価を効果的に活用する
- ・授業と部活動の違い(学ぶ場面、考える時間を保障する)

##### ④学びの積み重ねの見える化

- ・上達が見える化(シート、動画)する
- ・めあてが意識できる支援を工夫する



#### 【指導助言】中央教育事務所 指導主事 久米美樹 先生より

#### 子どもの成長や伸びがあったときを見逃さず、褒める大切さ

##### 《本時の授業について:成果》

- ・主体的に学ぶ工夫→めあての提示(何を学ぶのか、ゴールの姿を確認、見通し)
- ・挑戦意欲をかき立てるような課題の提示
- ・作戦ボードの活用→自分や友達の動きの確認、友達との課題解決への効果
- ・学びのつながりの視点→学習カード、ノート、映像、自分の言葉での振り返り

##### 《今後の授業で参考にしていきたいこと:課題》

- ・チーム内で友達と助け合ったり、分担された役割を果たしたりする姿
- ・ボールを持たない時の動きが大事(守備の人数を減らし空いている状況をつくる等)
- ・ICTの効果的な活用(振り返り、子ども同士のアドバイス)



○今後の保健体育科 WG の研究に向けて<久米先生の指導助言より>



～運動の楽しさを重視した授業づくりのポイントについて～

**<保健体育科の目標>**  
生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現

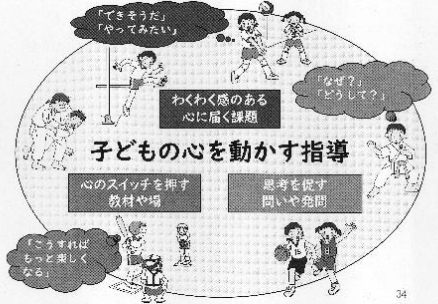
●運動が嫌いであれば生涯まで継続していくことは難しい

○楽しさを感じることで意欲が高まり、自ら進んで取り組んでいく

豊かなスポーツライフの実現のために

**運動の楽しさをより追求しながら授業を作ることが重要**

子どもの心を動かす指導が大切



**1. 課題の設定**  
「できそうだ」「やってみよう」  
ワクワク感のもてる課題  
子どもの心に届く課題  
↓  
主体的な学びを促す

**2. 心のスイッチを押す教材や場**  
「こうすればもっと楽しくなる」  
思考力をさらに発揮させる学びの仕掛けの工夫  
↓  
学びの深まり

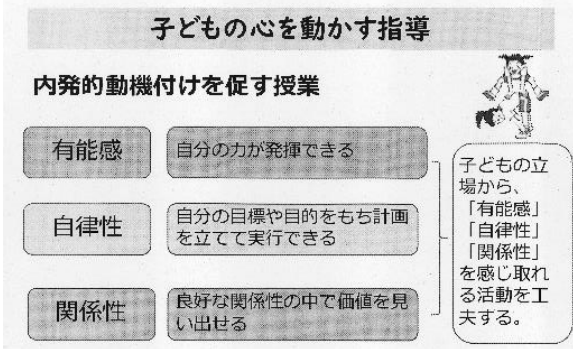
**3. 思考を促す問いや発問**  
「なぜできた？」  
「どうしてうまくいった？」  
子ども自身が運動のポイントやコツに気付く、動き方の工夫を考える  
↓  
思考をより深める

**内発的動機付けを促す授業の中でこそ、効果が発揮される**

- 有能感** 自分の力が発揮できる
- 自律性** 自分の目標や目的をもち計画を立てて実行できる
- 関係性** 良好な関係性の中で価値を見い出せる

子どもの立場から、この3つを感じ取れる活動を意識し、楽しさをたっぷり味わうことができる体育の授業を目指して授業改善を。  
授業改善により、体を動かすことの楽しさを味わわせ、体育が苦手な子どもを放置せず、体育が好き、体育が得意な子どもを育ててほしい。

先生たちが心身ともに元気であることが大切！！



保健体育科の教科指導の面からたくさんのご助言をいただきました。  
「運動習慣」につながるような授業づくりを意識しながら、今後も「運動の楽しさ」を実感できる授業作りや指導内容、手立ての工夫に取り組んでいきたいと思ひます。